

学習内容と到達目標

☞ 簡単な化学の実験のやり方について説明する。実験結果を予測する。

前半：[1. INTRODUCTION] ～ [4. PAIR WORK] (結果の予測)

後半：[5. LISTENING] ～ [7. SPEAKING] (手順の説明)

指導のポイント

**1. INTRODUCTION** ①で「2つの色を混ぜると何色になるか」答えてもらい、②で答えを確認する。その後、ホワイトボードに「赤+青=むらさき」と書き、これを日本語でどう言うか学習者に質問する。③のスク립トを確認するのはその後。

**2. LISTENING** ①で実験の結果を予想し、それを「～と」を使って表現させる。その後、会話を聞き答えを確認(②)。スク립トを読ませて、言語形式に注意を向けさせる。

**3. FOCUS** いずれも単純な活用の練習なので、難なくできるはず。

**4. LISTENING** ペアまたはグループで考えさせ、②で答えを確認する。③は以下の「授業で使えるリソース」を参照。

**5. LISTENING** まずはクラスの何人かに絵を見て実験の手順を説明させる(書かせてもよい)。その後、CDの会話を聞かせ、説明に必要な表現・語彙を拾わせる。そして、再度説明させる。その上でスク립トを読ませ、1課で学習した「～たら」とこの課で学習する「～と」の用法の違いを考えさせる。

**6. FOCUS** ここでは「～と」の後件には意図的な行為が来ないという文末制限があるのに対し、「～たら」にはそのような制限はないことに注意を向けさせる。ゆえに以下のような図式が成立する。

\_\_\_\_\_ たら、\_\_\_\_\_ する。(○)

\_\_\_\_\_ たら、\_\_\_\_\_ なる。(○)

\_\_\_\_\_ と、\_\_\_\_\_ する。(×)

\_\_\_\_\_ と、\_\_\_\_\_ なる。(○)

**7. SPEAKING** 2つの実験の手順を「～たら」と「～と」の使い分けを意識しながら説明させる(以下のフレームを参考)。ただし、新出の語彙が多いので、事前に語彙の確認をしておくか、必要な語彙を提示して練習させた方がよい。

① \_\_\_\_\_ ます。【スル】

② \_\_\_\_\_ たら、\_\_\_\_\_ ます。【スル】

③ \_\_\_\_\_ たら、\_\_\_\_\_ ます。【スル】

④ そうすると、\_\_\_\_\_ ます。【ナル】

## 授業で使えるリソース

- ☞ 日清食品の HP には「NOODLE+レシピ」というコーナーがあり、「カレーヌードルに梅干しをトッピングするとおいしい」などのアイデアが掲載されている。その他にもグーグルなどで「カレー、入れるとおいしい」などのキーワードを入力すると、様々なアイデアレシピが見つけられる。
- ☞ 料理の作り方などの練習用教材はいろいろな教科書に載っているので（例、『Situational Functional Japanese vol.3』（凡人社発行）の21課など）、応用練習としてそれらを活用するといいい。